

医療を通じて社会に貢献する

首都医科大学学生代表

見学日時：2018年6月1日（金） 9:00-12:30

見学場所：テルモ株式会社（テルモメディカルプラネックス）

見学概要

6月1日、訪日団は熱烈的な歓迎の中、テルモメディカルプラネックスを訪れた。ここではまず同社の歴史、経営理念そして事業範囲等について詳しい紹介があった。その後私たちは同社製品の展示室の他、ホスピタルスタジオ、模擬居室そして医療従事者が血管内治療、人工心肺、透析等の研修を行う手術室などを見学した。

なぜですか？

問:テルモという社名の由来は？

答:「テルモ」という社名は体温計のドイツ語読み「テルモメータ(THERMOMETER)」に由来している。テルモ創設以来、約40年間、体温計は同社の主力製品で、その後、様々な医療機器、医薬品等を製造・販売している。



問:テルモのステントの設計上のポイントは？

答:ステントにおいて二つの独自技術を応用している。一つは独特な編み目構造で、ヘビの鱗の形状からヒントを得たステント形状により血管追従性を高めている。もう一つは薬剤溶出型ステントのコーティング技術で、血管壁側表面のみに多層に薬剤をコーティングすることで、薬剤分布は維持しつつ、剥がれにくくしている。

感想

医学を学ぶ学生として今回医療機器を製造する企業を訪問できると知った時は心から感激した。そして実際にテルモ社に足を踏み入れ、私たちはまずダークカラーの建物と緑豊かな環境に衝撃を受けた。そして建物内の彫刻や絵画などはいずれも、ここが医療機器の研究施設というだけではないことを私たちに伝えるかのようであった。より正確に言えば、テルモは単に医療機器の製造だけに従事しているのではなく、「医療を通じて社会に貢献する」、科学技術とヒューマンケアが結びついた企業である。創業当初の赤線芯入り着色体温計から現在の透析研修用に作られた腕の模型、そして先天性の糖尿病患者の苦痛を和らげるために作られた世界最細のインシュリン注射針など、これら

はすべて「Innovating at the Speed of Life(いのちに寄り添う、イノベーションを目指して)」という世界的ビジョンに向け努力を続けた成果である。

安全性を確保したホスピタルスタジオ内の輸液ポンプや閉鎖式輸液システムは、医療スタッフによる輸液状況の遠隔監視を実現し、管理における利便性を高めている。また通信機能を持つ血糖測定器、血中酸素飽和度測定器、血圧計などは患者の日々のバイタルサインの速やかで効果的な管理を実現するなど、テルモは未来の医療における科学技術の重要性を示すだけでなく、素晴らしい未来図を現実のものにしている。これらは科学技術と医療の真の融合を私たちに示すものである。

今回私たちが特に印象深かったのは、子どもの輸液ポンプ用に設計されたシリコンゴム製のうさぎ型カバーで、可愛らしい二つの長い耳はきっと子どもの病院への恐怖心を和らげるだろうと思った。

ヒューマンケアから科学技術、科学技術から医療まで、テルモは未来の病院の在り方を示すと同時に、私たち将来の医療従事者に対しても新たな要求を突き付けている。優れた医療技術と細やかな患者への配慮をいかに両立するか、いかに患者の立場に立つか、これらは私たちが今後長い期間にわたり考えるべき問題である。

